

### 第192回ギャラリー展



#### 【第192回ギャラリー展のご案内】

侍ジャパンの決勝ラウンド進出。東日本大震災2年。スポーツの力ははまだ闇から抜け出せない被災者に届くことでしょうか。

被災地は長期的な視点で地域の再生を図ることは大切ですが、同時に1日も早く復興を実感できる工夫があっても良いのではないかと思います3年目です。

第192回ギャラリー展は、「この印籠が目に入らぬか」で有名な印籠を中心に唐物堆朱など漆作品を9点展示いたします。

作品は熊本県在住の方のご協力で、日頃目にする事のない貴重な作品の展示となります。

展示作品は漆工芸の繊細な技術の高さ、意匠の着想の奇抜さ、表現の親しみやおもしろさを伝えてくれます。

特に印籠は室町初期より見られ桃山時代には漆工芸、染色などの工芸技術が進歩した時代でもあり、用いられており、江戸時代には実用性もさることながら装身具としての役割が次第に強くなり、愛玩品となります。趣味に応じて沈金、蒔絵など細工を施した意匠の凝ったものが作られるようになりました。そして美術工芸品として評価が高くなって発展していくことになります。

堆朱、沈金、蒔絵などの漆工芸作品の「粋」をお楽しみください。

### 第192回ギャラリー展

—この印籠が目に入らぬか—

印籠 漆芸 展

平成25年 3月11日～4月12日